

## 国立大学教育研究評価委員会（第52回）議事録

1. 日 時 平成30年12月19日（水） 13:30～15:30

2. 場 所 学術総合センター 11階 1112会議室

3. 出席者

（委 員）アリソン委員、池上委員、井上委員、宇川委員、小畑委員、相良委員、  
高橋委員、豊田委員、山内委員、山口委員

（事務局）福田機構長、長谷川理事、湊屋理事、川口顧問、岡本顧問、  
山本研究開発部長、井田教授、竹中教授、土屋教授、洪井准教授、  
佐藤評価事業部長、三田評価企画課長、佐藤評価企画課課長補佐 外

### 議 事

- (1) 達成状況評価に関するポイントについて
- (2) 学系別の記載項目の構成及び判定方法等について
- (3) 「実績報告書作成要領（案）」及び「評価作業マニュアル（案）」について
- (4) その他

- ・ 第51回の議事録について、資料1（案）のとおり了承された。

（○：委員、●：事務局）

○委員長 ただいまから国立大学教育研究評価委員会第52回を開催します。議事に入る前に、まず事務局から配付資料の確認をお願いします。

● 議事次第をご覧ください。資料1が「国立大学教育研究評価委員会（第51回）議事録（案）」、資料2が「第3期中期目標期間の教育研究の状況についての達成状況評価に関するポイント（案）」、資料3-1が「第3期 達成状況の段階判定（案）」、資料3-2が「現況分析結果の達成状況評価への積極的な活用の具体化について（案）」、資料3-3が「第3期 達成状況報告書イメージ（案）」、資料4-1が「学系別の記載項目の構成及び判定方法等について（案）」、及び「【別紙】学系別の記載項目（11学系）」

の構成について（案）」、資料４－２が「第３期 現況調査表イメージ（案）」、資料４－３が「第３期 研究業績説明書イメージ（案）」、資料５が「第３期 中期目標期間の教育研究の状況についての評価における『第２期からの主な変更点』（更新案）」、資料６－１が「実績報告書作成要領（原案）」、資料６－２が「評価作業マニュアル（原案）」、資料６－３が「実績報告書作成要領、評価作業マニュアルの策定に伴う評価実施要項の改正について（案）」、資料７が「今後のスケジュール（案）」となっています。

参考資料として、参考資料１が「実績報告書作成要領、評価作業マニュアルの策定に当たり主な検討すべき事項の方向性について（案）」、参考資料２が「データ分析集における指標一覧」、参考資料３が「第３期中期目標期間における４年目終了時評価の評価スケジュール（案）」となっています。

○委員長 達成状況評価に関するポイントについて審議をお願いしたいと思いますが、まずは事務局より説明をお願いします。

● 議題１の達成状況評価に関するポイントについて、資料２をご覧ください。主な点として、３点あります。

まず１点目、小項目の評価を重視した仕組みについて、第２期では中期計画、小項目とも４段階で判定し、中期計画の判定の平均値を大項目まで積み上げていました。今回は、中期目標にあげた目的の達成を見ることをより重視するということで、小項目に重点を置くような仕組みとしています。資料３－１をご覧ください。中期計画を３段階、小項目を５段階とし、小項目では、中期計画の平均値と優れた取り組み等を抽出したものとを総合的に判断するという仕組みとしています。本資料の中項目と大項目の判断基準の平均値の数値は第２期の評価結果等を踏まえて算出していますが、前回の本委員会でお示しした数値の見直しを行い、本資料のとおりとしました。

次に、現況分析結果の達成状況評価への積極的な活用について、資料３－２を併せてご覧ください。前回の本委員会では、現況分析結果について達成状況評価における中期目標の段階判定に活用するということを決定しました。今回は具体的な内容について説明します。資料３－２（１）の２つ目の丸のとおり、達成状況評価の大項目の「教育に関する目標」、「研究に関する目標」のそれぞれの中項目判定の平均値において、現況分析の教育と研究の判定結果を基に加算・減算をすることを考えています。なお、具体的な加算・減算方法は、来年度に実施予定の評価者への研修会等までに決めたいと考えています。

次に３ボツの特記事項、優れた点及び特色ある点の抽出です。資料３－３の２ページを

ご覧いただきまして、《中期計画 1－1－1－1 に係る状況》に実施状況と小項目の達成に向けて得られた実績を記述することとしたいと考えています。評価者は、ここに記述された内容から優れた取り組み等を抽出して、小項目の判定を総合的に判断します。

○委員長　ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等がございましたらご発言をお願いします。これまで何回かかけて議論したものが積み上がった形だろうと思います。よろしいでしょうか。この実績報告書作成要領及び評価作業マニュアルについての内容について、パブリックコメントに諮るものとして確定したいと思います。

それでは、次の議事に移りまして、学系別の記載項目の構成及び判定方法等について審議をお願いしたいと思います。まず事務局より説明をお願いします。

●　資料の 4－1 をご覧ください。学系別の記載項目の構成及び判定方法等についてご説明します。学系別の記載項目の設定は、分析項目ごとに記載内容の一定の標準化を図り、現況調査表を作成する際の業務が効率化されることを期待して行うものになります。

記載項目や特記事項の内容について、学系別検討チームにおける検討結果をまとめたものが資料 4－1 別紙です。必須記載項目は、全ての学系で同じ項目、内容となっています。先日の本委員会ワーキンググループで各学系間の調整等を行いましたので、ワーキンググループ主査からご説明をお願いします。

○　今、ご説明にありましたように、別紙のような記載項目の表を素材にして各学系で議論いただきまして、その意見を基に本委員会ワーキンググループにおいて、学系別の記載項目の構成及び判定方法等について検討し、計 11 学系の学系別の記載項目の構成について、学系間の調整を行いました。

まず、教育活動の状況の選択記載項目「教育の国際化」について、第 3 期中期目標期間に係る特記事項で想定される特徴的な取り組みや優れた取り組み、それらの成果の状況にふさわしい名称となるように「教育の国際性」としました。学系別検討チームにおいて、「国際化は狭いのではないか」といった意見があったことを踏まえています。「教育活動の質の向上」については、「教育活動の質の保証・向上」としました。

続いて、「学修成果の可視化」という項目が選択記載項目にありましたが、大学における定着や可視化という概念が十分ではないという意見などの理由から、その他の一例として位置づけることとしました。機能強化の重点支援に関する項目は、他の記載項目と重複しやすいなどの理由から、選択記載項目のその他の例示として位置づけることにしました。ただし、「地域のニーズに応える人材育成・研究を推進」に相当する選択記載項目として、

「地域連携による教育活動」という項目を各学系に追加しました。地域については必要だろうということです。

なお、各記載項目の名称は、学系によって少し違いがあるものがあります。例えば保健系の場合には、「地域附属病院との連携による教育活動」という項目が入っています。

最後に、多くの学系別検討チームにおいては、「若手教員の育成が重要である」という意見があり、選択記載項目として設定するかどうかについて、ワーキンググループで検討いたしました。その結果、研究活動の状況の必須記載項目「研究の実施体制及び支援・推進体制」や「研究活動に関する施策／研究活動の質の向上」などと記載内容が重複しやすいために、その他の例示として位置付けることとしました。

● そのほか学系別検討チームからの意見を反映したものは、資料４－１別紙の各選択記載項目のその他の下欄に追加しました。

次に、資料４－２をご覧くださいまして、こちらが現況調査表のイメージ（案）となっています。基本的な記載事項をまず記載し、次に第３期中期目標期間に係る特記事項を記載するという様式を考えています。研究も構成は同じです。

続きまして、資料４－３が研究業績説明書のイメージ（案）となっておりまして、この研究業績水準判定については、この資料４－１ですと、分析項目２の必須項目の研究業績とその研究業績水準判定の結果が使われるということになります。様式の構成は、基本的に第２期と同じです。選定する研究業績の記載の例示として、著書と特許について記載例を追加しています。

資料４－１に戻ります。裏面の３．現況分析の判定方法等について、資料４－２で説明したとおり、必ず記載いただきたい基本的な記載事項と、特徴的な取り組みや優れた取り組みを書いていただく第３期中期目標期間に係る特記事項があります。

まず、基本的な記載事項は、特に教育の必須記載項目は教育の質保証の観点から確認いただき、満たしていない事項がある場合は、質の向上が求められるという判定としたいと考えています。第３期中期目標期間に係る特記事項は、評価者においても優れた点や特色ある点と判断するものがあれば抽出し、基本的な記載事項と併せて優れた点と総合して、分析項目ごとに４段階判定します。

○委員長     ただいまの説明に対しまして、ご意見、ご質問等ございましたらご発言をお願いします。

この記載項目につきましては、学系ごとに色々なご議論いただいて、それを集約し、さ

らに個別に選択記載項目の部分については、学系ごとに加えられているという形でこの表ができています。全体の部分も、3種類の部分について選択として、残すか否かについては学系ごとに色々な議論があった模様でして、項目として立てる必要はないといったことも、全体として整理されてきたかと思います。よろしいでしょうか。それでは、実績報告書作成要領及び評価作業マニュアルの内容について、パブリックコメントに諮るものとして確定します。

それでは、3番目の議題ですが、実績報告書作成要領(案)及び評価作業マニュアル(案)について、審議をお願いしたいと思います。まず事務局より説明をお願いします。

● 資料5をご覧ください。第2期からの主な変更点は、評価実施要項のパブリックコメントの際にも付けていた資料です。内容を新たに盛り込み、今回もパブリックコメントで使いたいと考えています。具体的には、青字と緑字で記載してまして、青字は前回本委員会で確認いただいた箇所、緑色の字は今回更に追記している部分となっています。

まず、3ページの実績報告書の提出期限は、4月の中旬から下旬としていましたが、日付を明記しました。4ページの達成状況評価の判定方法の見直しについては、先ほどご説明した段階判定と特記事項の抽出を追記しています。現況分析結果の活用方法の見直しについても、先ほどご説明した現況分析結果の達成への活用内容となっており、資料3-2を関連資料としてパブリックコメントに付けたいと考えています。6ページからが現況分析の内容となっていて、学系別の記載項目の詳細はガイドラインで示すこと、学系別検討チームにおいて各分野の特性を踏まえて検討をしていることを追記しています。大学機関別認証評価との関係性は、前回本委員会でお示しした内容と同じものとなっています。8ページの学系別の記載項目の検討状況は、議事2の内容を追加してまして、資料4-1の別紙をパブリックコメントに付けたいと考えています。

次に、資料6-1実績報告書作成要領(原案)をご覧ください。基本的には第2期をベースに作成し、今年度6月に公表済みの評価実施要項の基本方針、資料5の変更点及び議事1、2の内容を反映しています。目次をご覧ください。第2期と比較し大きく変わった点は、第2章の研究業績説明書の作成方法の記載位置が、第2期では別紙の取り扱いでしたが、実績報告書の作成作業としては法人が最初に取り組むであろうことから第2章に移動し、研究業績説明書、現況調査表、達成状況報告書の作成方法という並びに変えています。先ほど議事2でご議論いただいた記載項目について、10ページ及び25ページ以降に掲載しました。資料6-2評価作業マニュアル(原案)も同じく第2期をベースに議論

した内容を盛り込んでいます。

これら資料5、6-1及び6-2をパブリックコメントにかけたいと考えています。なお、今年度ご議論いただいた内容を反映すると、既に公表している評価実施要項を一部変更する必要が生じるため、資料6-3に改正箇所をまとめています。こちらも併せてパブリックコメントにかけたいと考えています。

資料6-3をご覧ください。青字部分が変更箇所となっています。1ページ目の(1)「現況分析結果の達成状況評価への積極的な活用」に関する改正として、①は達成状況評価の段階判定に現況分析結果を活用することを評価実施要項に記載していなかったため、それを追記したいと考えています。②は、第2期では中期計画と現況調査表、研究業績説明書との関連付けをしていましたが、第3期では①のとおり段階判定で活用し、関連付けの必要がなくなったため、該当箇所を削除します。(2)は、小項目の段階判定の判断要素とすることに伴い関係箇所を変更します。(3)現況分析の自己判定について、法人に自己分析のみを求め自己判定は求めないこととなりましたので、該当箇所を削除します。

○委員長　ただいまの説明に対しまして、ご意見、ご質問等ございましたら、ご発言をお願いします。学系別検討チームに参加された委員の皆さまは、何かご参加された感想等ございませんか。

○　総合理系の学系別検討チームに参加しましたが、特に学際的と多分野融合についての文言も含めた細かいご意見があり、大変有意義であったと思いました。

○　私も学系別検討チームの会議に出席して、先ほどおっしゃったように、非常にしっかりと活発な議論がなされていたと思います。今回の修正点は、適切な方向に修正されていると感じました。

○委員長　各学系からあがってきたものであり、ワーキンググループで議論が深められました。

○　ワーキンググループでもかなり議論しました。それぞれの学系できちんと議論され、その中から出てきた意見ですので、尊重しつつも全体として取りまとめをどうしたらいいか議論した結果、こういう形になったということです。

○　全体的にはいい方向に改善されてきていると、本当にそう思います。

まだ決まっていないところで大事な点といえば、資料6-2の評価作業マニュアル22ページの中項目の判定のところ、現況分析結果を反映させるというところです。加算・減算をするということになっていますが、どういう考え方で何点ぐらい加算・減算するのか

というところは大事な議論として残っていると思います。確かに点数化というのは両刃の剣ではありますが、現況分析を具体的に反映させる仕組みとしては、改善されているというべきかと思います。

○ 質問ですが、今までに大筋が変わっていくことや、最後の6年目は達成状況報告書だけといったことは、パブリックコメントをしていましたか。また、それに対して法人へ説明しましたか。

● 評価実施要項を作成した際にパブリックコメントにかけています。今年度7月に、東京と大阪で法人に対して説明会を開きました。

○委員長 ほかに何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、この原案のとおり実績報告書作成要領及び評価作業マニュアルの内容について、パブリックコメントに諮るものとして確定したいと思います。字句修正等を含め、今後修正が必要な場合には、私にご一任いただきますようよろしくお願いします。

法人及び社会へ広く意見を求めるため、1カ月間パブリックコメントを募集します。その意見を踏まえ、次回の本委員会において再度ご審議いただきたいと思います。引き続きワーキンググループにてパブリックコメントへの対応について、検討いただきたいと思います。

● 資料7 今後のスケジュールについてご連絡いたします。今、委員長からご説明がありましたとおり、パブリックコメントにかけます。その後は、3月上旬に本委員会ワーキンググループを行い、3月中旬に本委員会を開催したいと考えています。

なお、3月22日に文部科学省の国立大学法人評価委員会がありますので、そちらで報告するというスケジュールとなっています。

○委員長 以上で本日は閉会とします。長時間ありがとうございました。

— 了 —